編集月旦　2013年１１月号

★異次元の金融緩和による「アベノミクス好況」は一過性のもの。おカネが回って景気がいい人たちがいますが、外からは見えない心のうちに動くもの、その方向からはこの国の未来は見えてきません。

☆この国に繁栄をもたらし、もたらすもの。それは億兆円をいい数値を目標とするマクロからの方法ではなく、ワンコインをたいせつにし、力を合わせてみんなで築き上げるもの、民衆の「和」の結実です。その心の内に息づいているのは、格差をなくし、みんなで豊かになろうとする気がまえです。つい先ごろ１９７０年から８０年ころまで国民あるいは市民として保っていた「民心」を思い起こせばわかることです。

☆高齢者のわれわれは「アベノミクス」から何か恩恵を受けましたか。恩恵なく、格差だけが広がっていることに気づいています。安倍総理は女性と若者の成長力を強調し、現実には次世代を支えている現役シニアの潜在力を黙止しています。

☆一過性の「好況」が去ったあと、国難を乗り切る活力は、黙止されながらも高齢者が展開する「成長＋成熟社会」形成の活動のほかにはありません。それは史上初の高齢化時代を生きている３０００万人の高齢者による「（地域の、自国の、世界の、人類の）新たな歴史をつくる」事業です。

★新たな「歴史をつくる」事業、それは「**平和で安心して暮らせる地域社会をみずからの手でつくること**」です。具体的には国際的に孤立せず、国防（平和を守る）意識の醸成を国防軍に頼らず「地域に根差した国民運動」でおこない、冷静な世論をつくること、世代格差をつくらないこと、次世代を養育すること・・などが基本です。

☆「地域に根差した国民運動」というのは、高齢者が保持している知識、技術そして資産を投じてすすめる「特性を活かした地域づくり」の国民運動です。国防軍によらずに国を護る意識を醸成し、平和の礎を築くことになります。「平和の証としての高齢社会」の創出のために、かつて若き日に岸内閣を倒した国民運動「安保反対」に参加したみなさんが、各地で高齢者として再び活動する姿が思われます。これが新たな「歴史をつくる」事業だからです。これならどこの国からも批判を受けることはありません。

☆いま迎えているさまざまな難題を解決するには、高齢者なら可能である工夫がいります。それは「多重性を受け入れる成熟」の意識です。それなくしては「成長＋成熟社会」はできません。国際的地域主義、戦闘的平和主義、多様な民主主義、国民的個人主義・・など。暮らしの場では三世代交流、車行・歩行生活圏、外国産・国産品、視・聴情報・・など。

★新世紀での際立った国際的な時流は途上諸国の主導による「経済のグローバル化」ですが、世紀にわたる国際的な潮流は「平和裏の高齢化」です。

☆わが国はアジア唯一の先進国であり、世界最速の「高齢化国」であり、ふたつの課題の対応を同時に迫られています。後者については１９９９年の「国際高齢者年」以来、その国際モデル事例の達成を期待されているのです。

☆「月刊丈風」は、昨年５月の発刊いらい高齢社会活動の情報発信の拠点として活動してまいりました。今号はそのまとめとして、『 **丈人のススメ　「人生９０年時代」をこう生きる** 』（全）を特集といたしました。デジタル版を完成させ、ペーパー版の発刊を急ぎます。ぜひご意見をお寄せください。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受する「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の目標です。（編集人　記）